

1 単元名 日本 の 諸 地 域 「 関 東 地 方 」

2 本単元の目標

- (1) 関東地方について、その地域の特色や地域の課題を捉え、自然災害を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、そこで生ずる課題を理解する。(知識及び技能)
- (2) 関東地方において、自然災害時に起こりうる影響を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し表現する。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①関東地方において、その地域的 特色や地域の課題を理解してい る。 知②自然災害を中核とした考察の仕 方を取り上げた特色ある事と、 それに関連するほかの事象や、 そこで生ずる課題を理解してい る。	思①関東地方において、自然災 害発生時に起こり得る影響 を、地域の広がりや結び付 き、人々の対応などに着目 して、他の事象やそこで生 ずる課題と有機的に関連付 けて多面的・多角的に考察 している。	態①関東地方において、よりよ い社会の実現を視野にそこ で見られる課題を主体的に追 究しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領社会科地理的分野の内容「C 日本の様々な地域」の中項目「(3) 日本の諸地域」⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を受けて設定した。本単元は、自然災害などの事象を中核として、それを自然環境や人口・都市、交通、産業などに関する事象と関連付け、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などを多面的・多角的に考察することをねらいとしている。地理的分野の目標(2)には、「地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を(中略)多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」と示されている。そこで本単元では、地域的特色を自然災害と関連付け、社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現することをねらいとした単元を構成する。

(2) 生徒観

本学級の生徒に対して、社会的事象の意味や意義を多面的、多面的に考察する力について意識調査及び実態調査を行った(令和5年*月*日実施、第2学年*組*人)。その結果、学習課題に対する自分の考えを、シンキングツールを用いて整理することができると回答した生徒が*人、学習課題を様々な側面や立場から考え、解決することができると回答した生徒が*人であった。また、「九州地方の人々は、火山灰に克つために、どのように自然を生かしているか」という質問に対し、中核とする1つ以上の地理的事象と関連付けて記述できた生徒が*人、2つ以上の地理的事象と関連付けて記述できた生徒は*人であった。このことから本学級の生徒は、社会的事象を多面的・多角的に考察することに課題があることが分かった。

(3) 指導観

本単元の指導では、自然災害を中核として、他の事象と関連付けながら、多面的・多角的に地域的特色を捉えることができるようにする。まず第1時では、「人口が集中する東京で自然災害が起きたら、どのような影響がでるだろうか。」という単元を貫く問いを設定し、予想を立てさせうえで学習に取り組ませる。第2時から第4時では、資料をもとに課題を追究したり、話し合ったりする活動を通して、関東地方の地域的特色を理解できるように授業を展開する。第5時では、東京都心・郊外の人口集中や交通網の発達、産業の発展といった様々な視点から学んだことを活用して、単元を貫く問いに対する自分の考えをまとめる活動を設定する。第6時では、これまでに学習したことを自分事として捉えることができるように、パフォーマンス課題を設定する。これらの活動を通して、学習課題に対する自分の考えを深め、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を育てていきたい。

5 単元の指導計画（5時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	- 関東地方の地域的特色について知る。 - 現在と100年前の浅草寺の写真から、関東大震災の概略を捉える。 - 震災から100年経った今もなお、関東地方の人口が増えている理由を考える。 関東地方には、なぜ人口が集中するのだろうか。 - 人口が集中する理由を予想する。 - Xチャートを活用して、理由を分類する。 - 意見を学級で全体化し、単元を貫く問いを設定する。 単元を貫く問い 人口が集中する東京で自然災害が起きたら、どのような影響がでるだろうか。 - 単元の貫く問いに対する自分の考えをデジタルポートフォリオに記録する。	○			- プレゼンテーションソフトや提示資料から関東地方の地域的特色を確認する。 - 関東大震災の映像や資料から、被災地や二次災害の影響について、白地図やワークシートにまとめるように促す。 知①：学習課題に対する自分の考えをもち、整理できているかを見取り、できていない生徒には、クラウド上にある既習資料を活用するように助言する。【観察】 ○ 態①：生徒にとって身近な自然災害を資料で例示し、学習の見通しをもつことで、課題意識を高められるように促す。 態①：設定した単元を貫く問いについて、自分の考えを記述することができているかを見取り、できていない生徒には、本時で作成したXチャートを活用するように助言する。【スプレッドシート・観察】 - 単元を貫く問いに対する自分の考えを、デジタルポートフォリオに記録するように伝える。
2	2	- 提示された資料から、人口の過密化と自然災害を関連させ、学習課題を捉える。 なぜ、東京に人が集まるのだろうか。 - 自分の考えを根拠付けする事実を、資料から読み取る。 - 読み取った内容をシンキングツールにまとめ、グループで意見交流する。 - 意見交流後、地理的事象を比較・分類し、学級で全体化する。 東京は交通網の発達だけでなく、経済・政治・文化の中心地だから、人口が集中している。 - 振り返り後、都心の人口増加の理由（経済・文化・観光面など）と単元を貫く問いとを関連付けて、学びの足跡に記録する。	○			- 人口が集中している地域で自然災害が発生すると、どのような影響がでるのかを想起できるように資料を提示する。 ○ 態①：本時の課題の見通しをもつことができていない生徒を見取り、前時に作成したXチャートの視点を確認し、本時で調べる視点を明確にする。【観察】 - 三種類のシンキングツールを用意し、生徒に選択させることで個別最適化を図る。 知①：東京に人口が集中する理由について、考えを整理できているかを見取り、できていない生徒には、友達のシンキングツールを参考にするように助言する。【シンキングツール・観察】 - 人口が集中している東京都心で、自然災害が発生した場合の影響について、自分の考えを学びの足跡に記録するように助言する。
	3	- 提示された資料から、交通網の発達と自然災害を関連させ、学習課題を捉える。 東京郊外に人口が集中しているのは、なぜだろうか。 - 東京郊外の住人には、どのような立場の人がいるのかを確認する。例）学生、社会人、高齢者、外国人 - 東京郊外に住む理由について、シンキングツールにまとめる。 - シンキングツールを基に意見交流を行い、。東京郊外に人口が集中する理由について、グループで比較・分類する。 - ワールドカフェによる意見交流を行い、学級で全体化する。 人口が密集している東京ではなく、交通アクセスが便利な郊外に住む方がよいと考える人が多いから、人口が集中している。 - 振り返り後、東京郊外に住む理由（人口・自然環境・交通面など）と単元を貫く問いとを関連付けて、学びの足跡に記録する。	◎			- 交通網が発達している地域で自然災害が発生すると、どのような影響がでるのかを想起できるように資料を提示する。 - 足立区・港区の昼間人口・夜間人口を比較して、学習課題の概要を捉えられるようにする。 【ワークシート・観察】 - 三種類のシンキングツールの中から選択し、郊外に住む理由を明確にしてまとめるように助言する。 知②：東京郊外に人口が集中している理由について、交通網とその他の事象を関連付けて理解している。 【シンキングツール】 - 比較・分類に適したシンキングツールを用意し、立場ごとに比較・分類するように伝える。 - 聞き手は他グループから新たな視点を1つ以上得て、グループに戻ってくるように伝える。 - 人口が集中している東京郊外で、自然災害が発生した場合の影響について、自分の考えを学びの足跡に記録するように伝える。
	4	- 提示された資料から、産業の発展と自然災害を関連させ、学習課題を捉える。 関東地方に人口が集中したこと、どのような産業が盛んになったのだろうか。 - 関東地方の工業生産額ランキングを予想する。 - 関東地方には、どのような産業が発展していて、その産業がなぜ発展しているのかを考え、シンキングツールに整理する。 - シンキングツールを基に意見交流を行い、関東地方で盛んな産業とその産業が発展している理由について、グループで比較・分類する。 - 関東地方で盛んな産業とその理由について、グループで比較・分類し、ワールドカフェ形式で考えを広げ、学級で全体化する。 関東地方は第三次産業を中核として発達しているが、大量消費地である東京に農産物を運ぶため、その近郊には第一次産業が発展している。 - 振り返り後、産業の発展と単元を貫く問いとを関連付けて、学びの足跡に記録する。	◎		○	- 既習事項である産業の種類を確認し、産業が発展している地域で自然災害が発生すると、どのような影響がでるのかを想起できるようにする。 知①：関東地方で発達している産業とその産業が発展している理由について理解している。 【ワークシート・観察】 思①：関東地方で発達している産業と、その産業が発展している理由を関連付けて考察することができていない生徒を見取り、グループで作成したシンキングツールを参考にして、考察するように助言する。 【シンキングツール】 - 聞き手は他グループから新たな視点を1つ以上得て、グループに戻ってくるように助言する。 - 産業が発展している関東地方で、自然災害が発生した場合の影響について、自分の考えを学びの足跡に記録するように助言する。

3	5 本時	- 第1時～4時に記録してきた学びの足跡を見返し、本時の課題を捉える。 人口が集中する東京で自然災害が起きたら、どのような影響がでるだろうか。 - 学びの足跡を参考に、単元を貫く問いに対する予想を立てる。 予想される生徒の反応 - 建物が壊れ、多くの人が怪我をしてしまう。 - 交通網がストップし、食料が運ばれなくなってしまう。 - 液状化によって道路が使えなくなってしまう。 - 学びの足跡や資料、インターネットの情報等を関連付けて、考えたことをシンキングツールに整理する。 - シンキングツールを基に、意見交流を行い、二次災害後の影響を比較・分類する。 - ワールドカフェによる意見交流を行い、学級で全体化する。 - 単元を貫く問いに対する自分の考えをまとめ、全体で確認する。 【提案書例】 私たちが住んでいる湊一小学区は、海に近い地域です。ハザードマップから、地震が起ると津波が発生し、家が浸水する可能性が高いと考えました。また、マップでは津波浸水範囲が10m以上と示されています。そこで、私たちは住民が多い海門橋付近の堤防の整備を提言します。 - これまでの学習を振り返り、デジタルポートフォリオに記録する。 - 首都直下地震（内閣府作成）のシミュレーション動画を視聴する。			- 学びの足跡を見返すことで、記録してきた単元を貫く問いに対する視点を確認するように伝える。 - 本時の課題の見通しをもつことができていない生徒を見取り、これまでに蓄積してきた学びの足跡の視点を確認し、単元を貫く問いと関連付けるように助言する。 - シンキングツールの活用の有無を自分で選択する場面を設定する。 ◎ 思①：関東地方において、自然災害発生時に起こり得る影響について、地域の広がりや結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察している。 【シンキングツール】 ◎ 態①：関東地方において、地域的特色を捉え、東京都心や郊外の人口集中や交通網の発達、産業の発展を自然災害と関連付けながら、課題を主体的に追究しようとしていたかを見取る。 【スプレッドシート】 - 本時の学習でまとめたシンキングツールや学びの足跡などを活用して、単元を貫く問いに対する自分の考えをまとめるように伝える。 - 振り返りの視点を明確にして、単元を通して学んだことが記入できるように助言する。 - シミュレーション動画を視聴することで、自分の生活と自然災害を関連付けて、次時の学習につなげられるように助言する。
	6	「首都直下地震による東京の被害想定」を読み、もし震源地が茨城だった場合、那珂湊地区ではどのような二次災害が起こるのかを確認する。 - 動画を視聴し、「二次災害が発生した場合、那珂湊地区にはどのような影響が起こるのか」を予想する。 予想される生徒の反応 - 津波が発生して、堤防をこえて建物が壊れてしまう。 - 土砂崩れが起こり、近隣の家が崩壊する。 - 地面が害れることで下水道管が故障して、トイレが使えない。 - 二次災害による那珂湊地区への影響を学級全体で確認し、本時の学習課題を捉える。 あなたは那珂湊地区に住むひたちなか市民です。現在、市では30年以内に約70%の確率で発生する可能性のある首都直下地震のことで頭を悩ませています。みんなが安心・安全に暮らすために、一市民として、市長に提案書を作成しましょう。 - 住んでいる学区ごとに4人グループを作り、身近な地域で起こりやすい二次災害を災害別ハザードマップから読み取る。 - ハザードマップや提示資料、インターネットの情報等を関連付けて、那珂湊地区で考えられる施策をシンキングツールに整理する。 - 個人で提案書を作成し、仕上がった成果物をグループで共有する - 学区ごと（3グループ）に代表者を決め、学級で全体化する。 私たちが住んでいる湊一小学区は、海に近い地域です。ハザードマップから、地震が起ると津波が発生し、浸水などにより、家が崩壊する可能性があると考えました。また、マップでは津波浸水範囲が10m以上と示されています。そこで、私たちは住民が多い海門橋付近の堤防の整備を提言します。 - 単元を通しての振り返りをデジタルポートフォリオに記入する。			- 資料を提示し、首都直下地震が起ると、インフラやライフラインにどのような影響が出るのか確認し、本時の課題を捉えさせる。 - 那珂湊地区のハザードマップを提示し、身近な地域で起こる可能性がある二次災害を捉えさせる。 - 東日本大震災が発生した当時の大洗港周辺とひたちなか海浜鉄道の様子を動画で視聴することで、課題意識を高められるように促す。 - 日常生活で利用しているもの（道路、施設等）や使用しているもの（水道、電気、ガス等）を想起させ、学習課題を自分事として捉えられるように促す。 - これまでの学習とハザードマップを基に、パフォーマンス課題のまとめができるようにする。 - シンキングツールの活用の有無を自分で選択する場面を設定する。 ◎ 態①：自分が住んでいる地域において、よりよい社会の実現を視野に、市民が安心・安全に暮らすための施策について、主体的に追究しているか見取る。 【シンキングツール・観察】 - 個人で考えた施策を伝え合い、改善点がないかどうかを検討する。 ◎ 思①：既習内容やハザードマップを活用して、自然災害が発生した際に起こり得る影響を、地域の広がりや結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察している。 【提案書】 - 振り返りの視点を明確にして、単元を通して学んだことが記入できるように伝える。